

## 県外派遣報告書

審判員名（報告者）	大野 紗佳	所 属	U12 カテゴリー
大会名	令和8年度 第47回関東ミニバスケットボール大会		
期 間	2026年 3月7日～8日		
会 場	小瀬スポーツ公園体育館、東京エレクトロン葦崎体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
3月3日	審判会議	ZOOM 会議	
3月7日	大会1日目	東京エレクトロン葦崎体育館	
3月8日	大会2日目	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●講師：雨宮 恵 氏</p> <p>●テーマ：カッコいいプレゼンテーションを求めて</p> <p>講義の冒頭、各都県から今大会に参加されるS級審判員3名の映像を共有いただく</p> <p>-----</p> <p>▼赤羽 様（栃木）</p> <p>・立ち姿、走り姿、OBBの示し方</p> <p>▼菅 様（東京）</p> <p>・OBBの示し方、笛の吹き方</p> <p>▼竹澤 様（埼玉）</p> <p>・オフェンスファウル</p> <p>-----</p> <p>⇒3名に共通していることとして、一つ一つの動作に意味を持たせて「伝える」ことをしている</p> <p>ただ、プレゼンテーションだけカッコよければいいわけではなく、大前提、<b>「判定が正確である」</b>ことが重要</p> <p>⇒プレゼンテーションは、<b>正確な判定をするための動作</b>である</p>			
担当試合①			
期 日	3月7日（土）		
対戦カード	楡形北（山梨1）vs JBC ガールズ（栃木2）		
ク ル ー	CC：大野 紗佳（埼玉） U：海老澤 美羽 氏（群馬）		
ミーティング内容	審判主任：菅 祐介 氏（東京）		
<p><b>📌ゲーム前の PGC</b></p> <p>・メカニクスについての確認：エリア3の分担、チャックイン・チェックアウト、スイッチサイドのタイミングなど</p> <p>・プレーコーリングについての確認：RSBQの出方が大人のゲームとは異なる点の理解、タフにやらせつつイリーガルな手やダブルチームの2人目の寄せについての確認、リバウンドの時のスクリーンアウトについてなど</p> <p>・プレゼンテーション：今大会のテーマでもあるので、それぞれ意識することを明確にしてチャレンジする</p> <p>・その他：MCの確認、6年生にとって最後の大会なので勝っても負けても「やり切った」と思えるようにゲームを進めていく</p>			

## ▶ゲームの内容

・早い段階から点差が離れる展開の中で、お互いのチームがやりたいこと、意図していることをやらせてあげられるようにクルーで協力をして進めた

↳特に、白は#5のインサイドプレーヤーのところを手厚く見るようにし、青はDFをタイトに頑張り速攻を出すというプレーを求めている中で、プレーを長く見ることで、不用意に笛を入れてこちらがゲームを止めてしまうことがないように意識した

・メカニクスに関しては、青のボールマンプレッシャーが強くそこから目を離せないがために、ボールが飛んだ先で起きたプレーに長く目を当てていられず、リアクションでコールしてしまうことがあった

## ▶ゲーム後のミーティング

・以下の4つの観点で講評をいただいた

### 【ゲームフロー】

・笛がなくても進んでいくゲーム展開の中で、点差が離れ出してからでは難しさがあったゲームだったと思うが、お互いの意図するプレーをやらせようとしているのは伝わった

・ナチュラルインターバルが続く中で、アクティブマインドセットでそれでもダメというイリーガルな手の部分などにはしっかり笛が入ってきていたのでよかった

・TOコントロールという観点では、ゲームクロックの修正やショットクロックの管理など、お互いが意識して行えてよかった

### 【メカニクス】

・Lのスイッチサイドに関して、サイドスローインの時にLが右に来ている状況で、エリア6のLの目の前のプレーをTからコールしたケースがあった

↳Lとしては、何のためにスイッチサイドをしているのかという部分で、目的を持ってきたからには自分で判定をしたいケースだった

↳Tとしては、クルーの協力・信頼という部分で、Lに任せる強さを持ちたいケースだった

### 【ガイドライン】【プレゼンテーション】

・大きくプレーコーリングがずれているケースはなかったが、青のダブルチームに関して距離感や寄せ方などもう少し見てあげてもよかった

・プレゼンも意識しているのが伝わってよかったが、より声を使ってデリバリーができるより良くなる

## 担当試合②

期 日	3月7日(土)
対戦カード	敷島北(山梨2) vs ボンズ茨城(茨城1)
ク ル ー	CC: 田中 由紀子 氏(栃木) U: 大野 紗佳(埼玉)
ミーティング内容	審判主任: 手塚 清孝 氏(本部)

## ▼ゲームの内容

・白はインテンシティが上がってしまう選手が数名いる中で、選手やベンチに都度声をかけながら進めることには挑戦できたが、声だけでは収めることができなかったのでっと笛で伝えるべきだった

・負けているチームがDFを頑張るのはよいが、特に後半は距離感が近すぎるケースが目立ったので、前半のうちに距離感に関して笛を入れて選手やベンチにメッセージを伝えられたらよかった

## ▶ゲーム後のミーティング

・基準を示すのが難しいゲームの中で、前半はスッキリ吹けていた

・メカニクスに関して、スイッチサイドして見にくい姿勢はよかったので、戻るタイミングなど意識できたらなおよかった

・はじめにオフンスファウルを吹いたケースに関して、始まりはDFの寄せが原因だったので、DFファウルを先に判定できたらなおよかったが、絵として大きくなってしまったので仕方ない。その後の逆チームへのオフンスファウルは平等でよかった

担当試合③	
期 日	3月8日(日)
対戦カード	Regulus(埼玉2) vs 柿生レッズ(神奈川2)
ク ル ー	CC: 小山 愛菜(茨城) U: 大野 紗佳(埼玉)
ミーティング内容	
審判主任: 佐田 幸一氏(山梨)	
<p>▶ゲームの内容・ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグマンがいるゲームの中で、DF側のインテンシティが上がりそうなところを感じてコールに繋げることができた</li> <li>・スローインファールのケースについて</li> </ul> <p>4Qの2:02でシュートが入りその後のスローインで、1:56の時にボールがリリースされる前にファールコールをした この際本来であればスローインファールが適用されるケースだが、適用せずにリスタートさせてしまった</p> <p>2:00を切る前にシュートが入っていたのでゲームクロックは止まらない、かつ、プリベンティブシグナルも行わない時間だが、あくまでプリベンティブシグナルはスローインバイオレーションを防ぐものであり、スローインファールは切り分けて考えなければならなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーで協力しながら進められていた</li> </ul> <p>特に、お互い助けもらったコールの後、自分の世界に入ってしまうことなくアイコンタクトを取れていたのがよかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロック管理に関して、カットボールの後など、ボールのコントロールの有無で継続かリセットかとなる部分の管理が甘かった</li> </ul>	
担当試合④	
期 日	3月8日(日)
対戦カード	柿生フィリーズ(神奈川1) vs 八代(山梨2)
ク ル ー	CC: 都筑 陽介(群馬) U: 大野 紗佳(埼玉)
<p>▶ゲームの内容・ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム序盤から白のイリーガルなコンタクトが目立つ入りで、そこに対してはコンスタントに笛を入れ続けた</li> <li>・その分、白のドライブに対して青がイリーガルなコンタクトをした際にはお互い逃さないように意識ができた</li> <li>・後半になると、青がパスゲームを選択するようになり、前半のように白のファールを取る必要がなくなってきたが、その中でも危険なコンタクトについてはコールが必要だった</li> <li>・ショットクロックの修正など、クルーと協力しながら対応することができた</li> </ul>	
全体の感想	
<p>このたびは、関東ミニバスケットボール大会へ派遣いただきありがとうございました。今大会では、各都県のU12カテゴリーに所属している審判員の派遣が多く、アンダーカテゴリー育成に熱い想いを持たれている方との交流ができ、とても有意義な時間となりました。U12とは思えないほどレベルの高いゲームが多くあり、中高生のゲームと同じような判定基準が求められる一方で、U12ならではのルールにより難しさも感じる場面もありました。今後U12のルールが改正されていくにあたり、改めて明確にルールの違いについて理解をしていく必要があると感じた2日間でした。</p> <p>最後になりますが、このたび派遣いただいた埼玉県審判員長の眞榮喜様をはじめとする指導員の皆様、大会の開催にあたり準備、運営をくださった山梨県バスケットボール協会および山梨県審判員の皆様、割り当てクルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。</p> <p>引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>	

## 県外派遣報告書

審判員名(報告者)	吉澤 直也	所属	U12カテゴリー
大会名	令和7年度 第47回関東ミニバスケットボール大会		
期間	2026年 3月7日 ~ 8日		
会場	小瀬スポーツ公園体育館、東京エレクトロン葦崎アリーナ		
スケジュール			
期日	内容	場所	
3月3日	審判会議、研修会	ZOOM会議 参加者自宅他	
3月7日	男女予選リーグ	小瀬スポーツ公園体育館	
3月8日	男女決勝リーグ、順位決定戦	小瀬スポーツ公園体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>【かっこいいプレゼンテーションを求めて】講師: 雨宮 恵 氏(山梨県)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かっこいいプレゼンテーションとは? <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手、ベンチ、見ている観客や保護者に伝わりやすい</li> <li>・自分の身体の大きさやスタイルに合っているもの (レポートの仕方、アウトオブバウンズの示し方)</li> <li>・立つ、走る、止まるなどの姿勢、示し方と笛の鳴らし方、吹いた後の間の使い方 →かっこいいプレゼンテーションをする為には、判定が正確でなければならない その為に、しっかりと走り、止まって判定をしなければならない</li> <li>・プレゼンも判定力も両方磨くことが必要</li> </ul> </li> </ul>			
担当試合①			
期日	3月7日(土) 予選リーグ 男子		
対戦カード	友遊いずみ(栃木県)vs大国(山梨県)		
クルー	CC: 小山 愛菜氏(茨城) U: 吉澤 直也		
ミーティング内容	審判主任: 渡辺 伸一氏(山梨県)		
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>メカニクス確認とメンバー表から、両チームのキープレイヤーの確認</p> <p>スカウティングから、ピックマンに対するシュートチェックのところは取りこぼさずに2人で協力して判定していく</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>PGCで話したところは2人で協力して判定できた。手の整理について、同じ選手に連続で笛を入れた場面があった。何がダメなのか、より大きな声を使うことでプレゼンテーションに強調性が加わり、伝わりやすくなる。また、選手に声をかけて予防するという方法を教えていただいた。ベンチからのアピールについて、ACがリアクションする場面が何度かあった。ゲームを正しく進めて終わらせる為にも、TFを入れるという示し方があってもよかった。</p>			
担当試合②			
期日	3月7日(土) 予選リーグ 女子		
対戦カード	忍野ウィザーズ(山梨県)vs山崎MBC(千葉県)		
クルー	CC: 荻野 崇氏(群馬県) U: 吉澤 直也		

ミーティング内容	審判主任:大木 裕一氏(山梨県)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>メカニクスの確認、TO管理について</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>山崎MBCはエリア1からドライブし、エリア4にいるプレイヤーキックアウトするプレーが特徴。リード時、エリア6のローポスト近辺でのオフボールの攻防が気になり、何回か右にいて振られてしまう場面があった。チームのプレーの特徴を早くつかむこと、右に行くことへのリスクがあることを感じた。また、クルー間でのすり合わせも必要。笛の鳴らし方について、比較的強く鳴らしているイメージあるとのこと。同じアウトオブバウンズでも明らかなものは短く、グレーなものは少し長く鳴らすなどの工夫ができるとより説得力が増すとのこと。ファウルも同様により強く鳴らすときは、ビックインパクトなど大きな場面の時に取っておく必要がある。</p>	
担当試合③	
期日	3月8日(日) 女子3位リーグ
対戦カード	八代(山梨県)vs鹿沼ELKS(栃木県)
クルー	CC: 菱木 悠介氏(千葉県) U: 吉澤 直也
ミーティング内容	審判主任:赤羽 沙耶氏(栃木県)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>メカニクスの確認、両チームのキープレイヤーの確認</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>TO管理に課題が残った。タイマーとショットクロックのスタート、ストップが正しくできていない場面があった。2つの時間を常に把握しておくことで、トラブルが起きた際に、マジックタイムによるスムーズな修正ができることに繋がる。タイムアウト中に一方のベンチからコミュニケーションを求められる場面があった。それに対してクルー2人で対応してしまった。相手チームや観客から見ると、公平性に欠けているように見えてしまうので、原則1人で対応すること。</p>	

担当試合④	
期日	3月8日(日) 男子1リーグ
対戦カード	柿生レッズ(神奈川県)vs犬伏DUNX(栃木県)
クルー	CC: 佐藤 俊太郎氏(東京都) U: 吉澤 直也
ミーティング内容	審判主任:佐田 幸一氏(本部)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>メンバー表とスカウティングから、両チームの特徴とキープレイヤーの確認。</p> <p>ビックマンがいることから、ペイントエリアでの攻防やリバウンドの部分のところは、2人で協力しながら判定していく。</p>	
<p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>ゲーム序盤、クルーで両チームの手の使い方のところで笛を入れていったことで、ゲームがスムーズに進んだ。</p> <p>しかし、いくつかマージナルなコンタクトに笛を入れてしまい流れを止めてしまった。吹き急がず、影響まで確認して判定していく必要がある。</p>	

## 全体の感想

この度は、関東ミニバスケットボール大会に派遣していただきありがとうございます。

各チームが今年度の集大成として臨む最後の大会に関わらせていただいた事、非常に嬉しく思います。

オンザコートでは、今大会のテーマであるプレゼンテーションを意識しながら臨みました。立ち振る舞いや所作、声を大きく出す事など、当たり前のように思われがちですが、シビアな試合になればなるほど難しく感じました。またU12の大会では、幼い子どもや保護者がベンチでスコアを記入する為、より伝わりやすいプレゼンテーションが必要であると実感しました。今後は、自分に合ったプレゼンテーションの確立と徹底することを意識しながら、レフリングしていかなければならないと感じました。

最後に、山梨県協会の方には細部にわたるまでご配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、県内審判員の皆様へこの場をお借りして御礼申し上げます。今大会で得たことを連盟に還元できるよう、精進して参ります。今後も御指導の程、よろしく願いいたします。

## 県外派遣報告書

審判員名(報告者)	池田 大	所属	埼玉県U12連盟/U12カテゴリー
大会名	令和8年度第47回関東ミニバスケットボール大会		
期間	2025年 3月 7日 ~ 8日(参加日:3月7日~8日)		
会場	小瀬スポーツ公園体育館及び東京エレクトロン荊崎アリーナ		
スケジュール			
期日	内容	場所	
3月3日	審判会議、研修会	ZOOM会議 参加者自宅他	
3月7日	①忍野DREAMS 対 リトルファイブ幕張 ②八代 対 館林南光	小瀬スポーツ公園体育館	
3月8日	③邑楽KID 対 山崎MBC ④大国 対 松之木バヤリース	東京エレクトロン荊崎アリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>・判定基準の統一(プレゼンテーション) ファウルやバイオレーションの判断基準を共有し、試合全体の判定の一貫性を高める。</p> <p>・試合運営の円滑化 会場設備やTO機材、試合進行方法を事前に確認することでトラブルを防ぐ</p> <p>・審判クルーの連携強化 役割分担やコミュニケーション方法を共有し、審判チームとしての連携を高める</p> <p>・ゲームコントロールの質向上 コーチ・選手への対応や試合管理の方針を共有し、安定したゲーム運営につなげる</p>			
担当試合①			
期日	3月7日(土)		
対戦カード	忍野DREAMS 対 リトルファイブ幕張		
クルー	CC:池田 大(埼玉県) U1:山田 聡(神奈川県)		
ミーティング内容	審判主任:佐田 幸一(本部)		
<p>▶ゲーム前のPGC 忍野DREAMSの速いドライブ・1対1に注意(ゴール下の接触をしっかり見る) リトルファイブ幕張の外からのプレーに注意(ジャンプシュート時のコンタクト確認) 速い展開を想定しトランジション時のカバレッジを意識</p> <p>▶ゲーム後のミーティング ドライブプレー時の接触の判定が適切だったか確認 シュート時のコンタクトやリバウンドの競り合いを振り返り 速い展開の中でポジショニングが取れていたか確認</p>			
担当試合②			
期日	3月7日(土)		
対戦カード	八代 対 館林南光		
クルー	CC:池田 大(埼玉県) U1:吉野 純貴(茨城)		

ミーティング内容	審判主任:丸山 淳(本部)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>八代は速攻・ドライブが多い傾向を想定し、トランジション時の先行プレーとゴール下の接触をしっかりと確認する</p> <p>館林南光は組み立てからのシュートやリバウンド争いに注意し、シュート時のコンタクトとボックスアウトの接触を見逃さない</p> <p>女子ミニ特有のボール周辺の密集プレー(ダブルチーム・ルーズボール)でのホールディングや押しを丁寧に見る</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>速攻時の先行プレーやドライブの接触を適切に判定できていたか振り返る</p> <p>シュート時・リバウンド時のコンタクトを見逃さず判定できていたか確認</p> <p>密集プレーでのファウルやトラベリングを落ち着いて判定できていたか振り返る</p>	

担当試合③	
期日	3月8日(日)
対戦カード	邑楽KID 対 山崎MBC
クルー	CC: 根本 優(茨城県) U1: 池田 大(埼玉県)
ミーティング内容	審判主任:深澤 雅俊(山梨県)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブプレーの接触確認</li> </ul> <p>ペイントエリアでの1対1やヘルプディフェンス時のコンタクトをしっかりと見る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リバウンド時の接触</li> </ul> <p>ボックスアウトや押し合いなどの不正な接触を見逃さない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーのカバレッジ確認</li> </ul> <p>トランジション時の先行レフェリーとアイコンタクトを意識し、2人で確実にプレーをカバーする</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴール下の接触の判定振り返り</li> </ul> <p>ドライブやリバウンド時のコンタクトを適切に判定できていたか確認</p> <p>正しく守られた邑楽KIDの選手がドライブ後ボールをキックアウトした後、正体していたディフェンスに対して止まりきれなかったオフェンスがクラッシュした事象を、オフェンスファウルとして判定したケースが正しかったか振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジショニングの確認</li> </ul> <p>速攻やゴール下のプレーに対して適切な位置取りができていたか振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームコントロール</li> </ul> <p>選手・ベンチ対応や試合の流れを落ち着いて管理できていたか確認</p>	

担当試合④	
期日	3月8日(日)
対戦カード	大国 対 松の木バヤリース
クルー	CC: 池田 大(埼玉県) U1: 大倉 裕史(東京)
ミーティング内容	審判主任:手塚 清孝(本部)

▶ゲーム前のPGC

・松の木バヤリースのオールコートプレス対応

プレス時の手の使い方や守り方をしっかり確認する

・松の木4番・5番のディフェンスに注意

ゲーム全体を通して手の出し方が荒くならないよう、リーガルなのかイリーガルなのか接触を丁寧に見る

・松の木6番のシュート後に倒れるシチュエーションがあった際の責任の所在がディフェンスかどうか

ジャンプシュート時のコンタクトやFULをしっかり確認する

▶ゲーム後のミーティング

・ゴール下の接触の判定振り返り

ドライブやリバウンド時のコンタクトを適切に判定できていたか確認

・ポジショニングの確認

速攻やゴール下のプレーに対して適切な位置取りができていたか振り返り

・ゲームコントロール

選手インテンシティが上がる前後の判定や・コミュニケーションを求められた際のベンチへの対応や試合の流れを落ち着いて管理できていたか確認